

# 評議員会議事録

日時 1998年7月11日 午後1時—5時

場所 国立天文台講義室

出席者

家、井上、今井、上野、奥田、尾崎、小平、小山、杉本、鈴木、須藤、高原、  
谷口、半田、福江、松田、吉田、以上出席17名、  
欠席13名のうち、委任状5名

他に、理事会より、庶務理事 柴田、会計理事 紀伊、欧文報告編集理事 有本、事務室より事務長 原が出席

議事に先立ち、尾崎洋二氏を議長に、井上一、半田俊弘の両氏を署名人に選出した。

1. 前回(1998年3月17日)の評議員議事録が報告され、承認された。
2. 1999年度事業報告(案)が柴田庶務理事より報告され、議論の後、若干の修正を加えることとなった。なお、99年度の春秋の年会日程がそれぞれ3日間で足りるどうか質問があり、理事会で検討をすることとなった。

次に1999年度収支予算書(案)が紀伊会計理事より報告され、種々議論があった。予算案のうち内地留学奨学金の基金の管理変更とそれに伴う一部の基本財産の管理会計の変更について、これを別個の総会の議題とすべきとの強い意見が出た。しかし、議論の結果、内地留学奨学金基金の管理変更と欧文報告電子化関連の予算案は原案通り収支予算書(案)に含めた形で、総会の議案とすることが了承された。

3. 1999年—2000年の新理事・新監事が紹介され、新監事について若干の議論があった。
4. 1999年—2000年の各種委員会の新委員が紹介され、評議員選挙管理委員会の新委員と林忠四郎賞選考委員会の新委員が承認された。(なお天文教育委員会委員は未定。)
5. IAU基金選考委員会内規(案)が有本理事より紹介され、種々議論ののち、一部修正することで承認された。
6. 定款の改訂(案)が承認された。
7. その他

(1) 理事が評議員を兼ねることの問題に関して、理事会の提案(評議員選挙の際に理事を選ばないようにするという案)が紹介され、また、せめて理事長だけでも評議員を辞任すべきという案も出て、種々議論されたが、いずれも現行の定款の範疇で実施するのは容易でないということで、結局、理事が評議員を兼ねるのはやむをない、という結論になった。

(2) 欧文報告(PASJ)の電子化の計画とこれにともなう予算措置が有本編集理事より報告され、種々議論された。一部慎重論があったものの、電子化はぜひ進めるべきだ、という賛成の意見が大多数であった。なお、収支予算書(案)が秋の総会で可決すれば、電子化は1999年度1月より開始される。また、電子化にともなって当面二年の間、掲載料は半額となる予定である。

1998年8月6日

社団法人 日本天文学会  
議長 尾崎洋二  
署名人 井上一  
署名人 半田俊弘